

立川とびしまレモンプロジェクトについて

平素より、当連合会の事業運営につきまして、格別なるご配慮を賜り厚く御礼申し上げます。標記の件につき、ご報告申し上げます。

2017年より、たちかわ商店街研究会にて、地域資源研究プロジェクトを設け、様々なたちかわ産食材での街の盛り上げについて議論を交わしてきておりました。

そんな中、2018年7月に西日本豪雨が国産レモン発祥の地である呉市のとびしま地区を襲い、斜面に植えたレモンの苗木が泥水もろとも流されてしまうという話しが飛び込んできました。ちょうど、とびしま地区の方々とある縁で繋がったばかりの頃のニュースでした。そこで、レモンの購入で島を応援し、オリジナルメニューを名物にしようと「立川とびしまレモンプロジェクト」が誕生しました。ご承知のようにとびしま地区は国産レモン発祥の地であり、国産レモンの需要が高まっている時期でもありました。

そして、10月には、とびしま地区からやってきたレモンの苗木の植樹式をむかえることになり、立川でレモン栽培の実証実験も始まりました。

この日から5年後には立川の地でもレモンが収穫できることを願っておりましたが、近年の厳しい冬の寒さにより、残念ながら3年前に植樹したレモンの苗木は5年後の実りを待てずに朽ちてしまいました。

しかしながら、とびしま地区とつながった縁は強く、立川向け国産レモンの出荷体制は確立されており、下記に記載する発注方法で、いつでも購入できる事となりました。

国産レモンは人気が高く、それを使ったメニューの人気も同様である事から、今後は当初のレモンプロジェクトの思いでもある「レモンメニューの一番多い街」を目指して各個店での取り組みがまちの活性化につながる事を祈念しております。

立川商連としては「立川とびしまレモンプロジェクト」に一区切りをつける事となりましたが、皆様の店舗での活用を期待しております。

洋食や和食、お菓子作りなどジャンルを問わず使えるレモン、特に国産レモンは希少価値もあり注目商品として各個店でも取り組みやすい商材ではないでしょうか？

また、現在立川の農家で「マイヤー」という寒冷地に強い品種のレモン（とびしまのレモンはリスボンと言う品種）を育てていらっしゃる場所があり、こちらは順調に生育し、数は少ないですが、市内で販売が始まっております。

立川商連では、地元商店「活性化のアイデア」を提供すべく、現在は農商連携という新たな視点で地域資源を活性化し、街を盛り上げるべく取り組ませて頂いております。

どうぞ引き続きどうぞよろしく願いいたします。